

方向指示ハンドル付き
手動式バルブ

- 高圧型
- 低圧型



安全にお使いいただくために

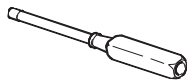
ダイヤフラム・バルブ DP シリーズを安全にお使いいただくために、ここでは「警告」、「注意」とそれらの記号の意味について説明しています。取り扱い説明書に従って作業を行う前に、以下の内容をご確認ください。

⚠ 注意 注意事項があることを示します。

注意：場合によっては危険な状況が発生するおそれがあることを示します。危険な取り扱い方法に対する警告として使用される場合もあります。

必要な工具

ナット・ドライバー
(11/32 インチ・サイズ)



方向指示ハンドル・キット



⚠ 注意

システムに取り付けたバルブのメンテナンスを行う場合には、必ず事前に以下の作業を行ってください。

- システム圧力の開放（システムの圧抜き）
- バルブのパージ

⚠ 注記

バルブを分解した場合は、必ず未使用のダイヤフラムを取り付けてください。

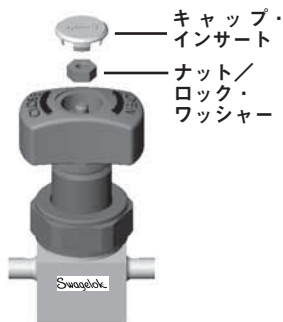
⚠ 注意

高圧型コンポーネントと低圧型コンポーネントの互換は絶対に行わないでください。

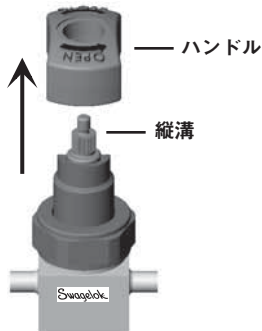
方向指示ハンドルの交換

1. ハンドルをまわして「開」状態にします。

2. キャップ・インサートを取り外します。次に、11/32 インチ・サイズのナット・ドライバーを使用して、ナット／ロック・ワッシャーを取り外します。ハンドルは取り外さないでください。



3. ハンドルをまわして「閉」状態にし、ハンドルを持ち上げてバルブから取り外します。



4. 未使用の方向指示ハンドルを縦溝上にセットします。その際に、「OPEN」ラベルの位置をバルブ・ボディ前面に合わせます。ハンドルはポートに対して直角になります。



⚠ 注意

ハンドル・インサート上部とアクチュエーターの縦溝の上部の高さを合わせてください。高さが合っていない場合は、ハンドルを持ち上げて縦溝から取り外します。ハンドルを反時計回りに溝ひとつ分回転させてから、再度ハンドルを縦溝にセットします。

アクチュエーターの縦溝



5. ナット／ロック・ワッシャーを取り付けて締め付けます（トルク値：約 2.8 N・m）。

6. キャップ・インサートをハンドル上部に押し込みます。



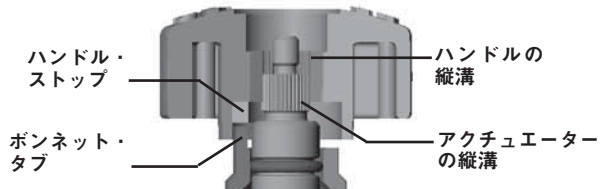
7. バルブのテストを行い、漏れがなくかつ正常に作動することを確認します。詳細につきましては、下のテストの項をご参照ください。
- テストの結果、バルブに問題がない場合は、再度システムに取り付けます。
 - テストの結果、バルブに何らかの問題が生じている場合は、ハンドルを再調整します。下の方向指示ハンドルの再調整の項をご参照ください。

方向指示ハンドルの再調整

1. ハンドルを「開」状態にし、キャップ・インサートを取り外します。次に、11/32 インチ・サイズのナット・ドライバーを使用して、ナット/ロック・ワッシャーを取り外します。



2. ハンドル・ストップがボンネット・タブに当たらないように、ハンドルを「上」方向に約3.2mm引きます。ハンドルの縦溝をアクチュエーターの縦溝に噛み合わせたままにします。



3. ハンドルを時計回りにまわして、バルブを全「閉」状態にします。

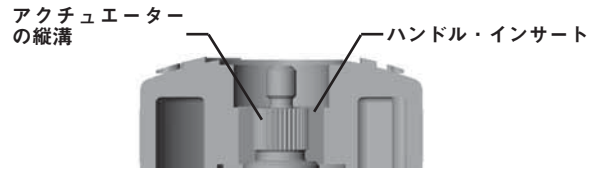


4. バルブが「閉」状態のままハンドルを持ち上げ、アクチュエーター上に再度ハンドルをセットします。その際に、「OPEN」ラベルの位置をバルブ・ボディ前面に合わせます。ハンドルはポートに対して直角になります。



注意

ハンドル・インサート上部とアクチュエーターの縦溝の上部の高さを合わせてください。高さが合っていない場合は、ハンドルを持ち上げて縦溝から取り外します。ハンドルを反時計回りに溝ひとつ分回転させてから、再度ハンドルを縦溝にセットします。



5. ナット/ロック・ワッシャーを取り付けて締め付けます (トルク値: 約2.8N・m)。

6. キャップ・インサートをハンドル上部に押し込みます。



7. バルブのテストを行い、漏れがなくかつ正常に作動することを確認します。詳細につきましては、下のテストの項をご参照ください。

- テストの結果、バルブに問題がない場合は、再度システムに取り付けます。
- テストの結果、バルブに何らかの問題が生じている場合は、再度手順1～7を行います。

テスト

- バルブが「開」状態のとき、流体がバルブを通過することを確認します。
- バルブが「閉」状態のとき、流体がバルブを通過しないことを確認します。
- リーク・レートを 1×10^{-9} std cm³/s として、標準のインボード・ヘリウム・リーク・テスト (真空法) を行い、ダイヤフラム・シール部およびシート・シール部に漏れが生じていないことを確認します。
- シート・シール部のテストを行い、使用圧力で漏れが生じていないことを確認します。
- ハンドルをまわして「開」状態および「閉」状態にして、1/4 回転操作のテストを行い、正常に作動することを確認します。

ご注意: 他社部品との混用や互換は絶対に行わないでください。

この日本語版手順説明書は、英語版手順説明書の内容を忠実に反映することを目的に、製作いたしました。日本語版の内容に英語版との相違が生じないように、細心の注意を払っておりますが、万が一相違が生じた場合には、英語版の内容が優先されますので、ご注意ください。